

がん再発予防と乳酸菌

がん社会 を診る

中川 恵一

ぼつこうがンを「自己超音波検査」で発見し、内視鏡切除を受けてから5年が経過しました。

私の場合、血尿はおろか全くの無症状でした。たまたまぼつこうに超音波のプロローブを当ててみたら、ぼつこうがんが見つかったのです。1センチ余りの「上皮内がん」でしたが、泌尿器科の主治医からは5年以内に約5割の確率で再発すると宣告されました。

とりあえず5年間は無事だったわけですが、今後も再発

のリスクは多分に残ります。痛いし、恥ずかしいですが、半年ごとにぼつこう内視鏡検査を受けるつもりです。

ぼつこうがんの再発予防のために私が心がけているのが、乳酸菌の摂取を欠かさなことです。

手術直後から「ビオラクトス」という乳酸菌製剤を服用していました。これはヤクルト本社が製造・販売する医療用医薬品で、乳酸菌の一種である「ラクトバチルス・カゼ

イ・シロタ株」の生菌を製剤化したものです。生菌とは文字通り生きた菌のことで、「プロバイオティクス」とも呼ばれます。

私のように表在性のぼつこうがんの治療を受けた患者がビオラクトスを服用すると再発率が低下することが、東大病院泌尿器科などによる研究で明らかにされています。別の研究でも、乳酸菌飲料がぼつこうがんの発症リスクを半分にすることが分かっています。

私が処方を受けていたビオラクトスはヤクルトそのものと言えますが、2020年3月で販売中止になりました。まさに「ドラッグロス」に直面したわけですね。

ビオラクトスが販売開始となったのは30年以上も前のことです。ですから、薬価が安くなりすぎたためだと思えます。ビオラクトスを1日3回服用しても薬価は20円もかかりません。ヤクルトを買って飲むよりもずっと安いわけです。

糖尿病の第一選択薬のメトホルミンは長生き効果の他、がんの予防や抗がん作用も期待される素晴らしい薬です。しかし60年も使われているため一錠10円程度と安価で、製薬会社にとっては莫大な費用をかけて臨床試験を行う動機に欠けるでしょう。

薬はただ安ければよいとはかりは言えないわけです。次回もヤクルトをはじめとするプロバイオティクスについて考えます。

(東京大学特任教授)



イラスト 中村 久美